

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年11月12日
【計算期間】	第25期中（自 2024年2月16日 至 2024年8月15日）
【ファンド名】	青のライフキャンパス・ファンド（標準型） 赤のライフキャンパス・ファンド（積極型）
【発行者名】	T & D アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田中 義久
【本店の所在の場所】	東京都港区芝五丁目36番7号
【事務連絡者氏名】	富岡 秀夫
【連絡場所】	東京都港区芝五丁目36番7号
【電話番号】	03-6722-4813
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1【ファンドの運用状況】

【青のライフキャンパス・ファンド（標準型）】

（１）【投資状況】

資産の種類別、地域別の投資状況

（2024年8月30日現在）

資産の種類	国名	時価合計（百万円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	1,872	95.94
現金・預金・その他の資産（負債差引後）	日本	79	4.06
合計（純資産総額）	-	1,951	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（２）【運用実績】

【純資産の推移】

2024年8月末日及び同日前1年以内における各月末及び直近10計算期間末日の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 （分配落） （単位：百万円）	純資産総額 （分配付） （単位：百万円）	1口当たりの 純資産額 （分配落） （単位：円）	1口当たりの 純資産額 （分配付） （単位：円）
第15期 計算期間 （2015年2月16日現在）	1,163	1,291	0.9989	1.1089
第16期 計算期間 （2016年2月15日現在）	1,212	1,212	0.9456	0.9456
第17期 計算期間 （2017年2月15日現在）	1,311	1,331	1.0182	1.0342
第18期 計算期間 （2018年2月15日現在）	1,314	1,438	1.0053	1.1003
第19期 計算期間 （2019年2月15日現在）	1,386	1,386	0.9868	0.9868
第20期 計算期間 （2020年2月17日現在）	1,400	1,483	0.9952	1.0542
第21期 計算期間 （2021年2月15日現在）	1,485	1,658	1.0057	1.1227
第22期 計算期間 （2022年2月15日現在）	1,652	1,660	1.0050	1.0100
第23期 計算期間 （2023年2月15日現在）	1,608	1,608	0.9838	0.9838
2023年8月末日	1,756	-	1.0752	-
2023年9月末日	1,742	-	1.0675	-
2023年10月末日	1,700	-	1.0429	-
2023年11月末日	1,768	-	1.0827	-
2023年12月末日	1,780	-	1.0892	-
2024年1月末日	1,844	-	1.1263	-
第24期 計算期間 （2024年2月15日現在）	1,860	1,877	1.1361	1.1461
2024年2月末日	1,902	-	1.1525	-
2024年3月末日	1,955	-	1.1833	-
2024年4月末日	1,944	-	1.1757	-
2024年5月末日	1,949	-	1.1786	-
2024年6月末日	1,999	-	1.2087	-
2024年7月末日	1,965	-	1.1867	-
2024年8月末日	1,951	-	1.1777	-

【分配の推移】

	1口当たりの分配金（円）
第15期 計算期間（2015年2月16日）	0.1100
第16期 計算期間（2016年2月15日）	0.0000
第17期 計算期間（2017年2月15日）	0.0160
第18期 計算期間（2018年2月15日）	0.0950

第19期 計算期間（2019年2月15日）	0.0000
第20期 計算期間（2020年2月17日）	0.0590
第21期 計算期間（2021年2月15日）	0.1170
第22期 計算期間（2022年2月15日）	0.0050
第23期 計算期間（2023年2月15日）	0.0000
第24期 計算期間（2024年2月15日）	0.0100

【収益率の推移】

	収益率（％）
第15期 計算期間（2014年2月18日 ～ 2015年2月16日）	11.63
第16期 計算期間（2015年2月17日 ～ 2016年2月15日）	5.34
第17期 計算期間（2016年2月16日 ～ 2017年2月15日）	9.37
第18期 計算期間（2017年2月16日 ～ 2018年2月15日）	8.06
第19期 計算期間（2018年2月16日 ～ 2019年2月15日）	1.84
第20期 計算期間（2019年2月16日 ～ 2020年2月17日）	6.83
第21期 計算期間（2020年2月18日 ～ 2021年2月15日）	12.81
第22期 計算期間（2021年2月16日 ～ 2022年2月15日）	0.43
第23期 計算期間（2022年2月16日 ～ 2023年2月15日）	2.11
第24期 計算期間（2023年2月16日 ～ 2024年2月15日）	16.50
第25期 計算期間中（2024年2月16日 ～ 2024年8月30日）	3.66

（注）収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。ただし、第25期計算期間中については2024年8月30日の基準価額から前期末基準価額を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

【赤のライフキャンパス・ファンド（積極型）】

（１）【投資状況】

資産の種類別、地域別の投資状況

（2024年8月30日現在）

資産の種類	国名	時価合計（百万円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	2,105	96.19
現金・預金・その他の資産（負債差引後）	日本	83	3.81
合計（純資産総額）	-	2,188	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（２）【運用実績】

【純資産の推移】

2024年8月末日及び同日前1年以内における各月末及び直近10計算期間末日の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 （分配落） （単位：百万円）	純資産総額 （分配付） （単位：百万円）	1口当たりの 純資産額 （分配落） （単位：円）	1口当たりの 純資産額 （分配付） （単位：円）
第15期 計算期間 （2015年2月16日現在）	1,142	1,266	0.9996	1.1086
第16期 計算期間 （2016年2月15日現在）	1,167	1,167	0.9294	0.9294
第17期 計算期間 （2017年2月15日現在）	1,289	1,312	1.0221	1.0401
第18期 計算期間 （2018年2月15日現在）	1,257	1,441	0.9842	1.1282
第19期 計算期間 （2019年2月15日現在）	1,378	1,378	0.9576	0.9576
第20期 計算期間 （2020年2月17日現在）	1,432	1,499	0.9933	1.0393
第21期 計算期間 （2021年2月15日現在）	1,520	1,759	1.0075	1.1655
第22期 計算期間 （2022年2月15日現在）	1,746	1,755	1.0088	1.0138
第23期 計算期間 （2023年2月15日現在）	1,729	1,729	0.9906	0.9906
2023年8月末日	1,933	-	1.1091	-
2023年9月末日	1,918	-	1.1019	-
2023年10月末日	1,870	-	1.0743	-
2023年11月末日	1,952	-	1.1199	-
2023年12月末日	1,962	-	1.1275	-
2024年1月末日	2,052	-	1.1788	-
第24期 計算期間 （2024年2月15日現在）	2,083	2,101	1.1949	1.2049
2024年2月末日	2,132	-	1.2163	-
2024年3月末日	2,210	-	1.2584	-
2024年4月末日	2,197	-	1.2510	-
2024年5月末日	2,209	-	1.2594	-
2024年6月末日	2,283	-	1.2982	-
2024年7月末日	2,234	-	1.2709	-
2024年8月末日	2,188	-	1.2554	-

【分配の推移】

	1口当たりの分配金（円）
第15期 計算期間（2015年2月16日）	0.1090
第16期 計算期間（2016年2月15日）	0.0000
第17期 計算期間（2017年2月15日）	0.0180
第18期 計算期間（2018年2月15日）	0.1440
第19期 計算期間（2019年2月15日）	0.0000
第20期 計算期間（2020年2月17日）	0.0460
第21期 計算期間（2021年2月15日）	0.1580
第22期 計算期間（2022年2月15日）	0.0050
第23期 計算期間（2023年2月15日）	0.0000
第24期 計算期間（2024年2月15日）	0.0100

【収益率の推移】

	収益率（％）
第15期 計算期間（2014年2月18日 ～ 2015年2月16日）	14.08
第16期 計算期間（2015年2月17日 ～ 2016年2月15日）	7.02
第17期 計算期間（2016年2月16日 ～ 2017年2月15日）	11.91
第18期 計算期間（2017年2月16日 ～ 2018年2月15日）	10.38
第19期 計算期間（2018年2月16日 ～ 2019年2月15日）	2.70
第20期 計算期間（2019年2月16日 ～ 2020年2月17日）	8.53
第21期 計算期間（2020年2月18日 ～ 2021年2月15日）	17.34
第22期 計算期間（2021年2月16日 ～ 2022年2月15日）	0.63
第23期 計算期間（2022年2月16日 ～ 2023年2月15日）	1.80
第24期 計算期間（2023年2月16日 ～ 2024年2月15日）	21.63
第25期 計算期間中（2024年2月16日 ～ 2024年8月30日）	5.06

（注）収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。ただし、第25期計算期間中については2024年8月30日の基準価額から前期末基準価額を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（参考）マザーファンドの状況

親投資信託資産の種類別、地域別の投資状況

国内株式マザーファンド

（2024年8月30日現在）

資産の種類	国名	時価合計（百万円）	投資比率（％）
株式	日本	8,320	97.91
現金・預金・その他の資産（負債差引後）	日本	178	2.09
合計（純資産総額）	-	8,498	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

国内債券マザーファンド

（2024年8月30日現在）

資産の種類	国名	時価合計（百万円）	投資比率（％）
国債証券	日本	8,358	78.83
地方債証券	日本	291	2.75
特殊債券	日本	570	5.38
社債券	日本	1,090	10.28
現金・預金・その他の資産（負債差引後）	日本	295	2.76
合計（純資産総額）	-	10,604	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

外国株式マザーファンド

（2024年8月30日現在）

資産の種類	国／地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
株式	アメリカ	3,303	71.76
	イギリス	188	4.08
	スイス	150	3.26
	カナダ	132	2.86
	フランス	125	2.71
	ドイツ	114	2.48
	オランダ	100	2.18
	オーストラリア	78	1.70
	アイルランド	70	1.53
	デンマーク	49	1.07
	スペイン	37	0.81
	イタリア	34	0.75
	スウェーデン	22	0.48
	シンガポール	16	0.36
	ジャージー	9	0.20
	バミューダ諸島	8	0.18
	イスラエル	6	0.12
	リベリア	5	0.12
	ベルギー	5	0.10
	ノルウェー	5	0.10
	香港	4	0.08
	キュラソー	3	0.08
	ルクセンブルク	2	0.05
	フィンランド	2	0.04
	小計	4,469	97.09
新株予約権証券	カナダ	0	0.00
投資証券	アメリカ	70	1.53
	オーストラリア	9	0.20
	イギリス	3	0.06
	シンガポール	0	0.00
	小計	83	1.79
現金・預金・その他の資産 （負債差引後）	日本	51	1.12
合計（純資産総額）	-	4,603	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。
（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

外国債券マザーファンド

（2024年8月30日現在）

資産の種類	国／地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
-------	------	-----------	---------

国債証券	アメリカ	986	47.39
	ドイツ	227	10.91
	中国	185	8.90
	イタリア	142	6.82
	フランス	112	5.36
	イギリス	109	5.25
	スペイン	93	4.45
	カナダ	50	2.42
	オーストラリア	36	1.73
	オーストリア	25	1.21
	オランダ	24	1.17
	ベルギー	23	1.10
	メキシコ	15	0.71
	ポーランド	10	0.48
	シンガポール	8	0.40
	スウェーデン	5	0.23
	ノルウェー	4	0.18
	小計	2,054	98.71
現金・預金・その他の資産（負債差引後）	日本	27	1.29
合計（純資産総額）	-	2,081	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。
（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

2【設定及び解約の実績】

青のライフキャンパス・ファンド（標準型）

	設定口数	解約口数
第15期 計算期間（2014年2月18日 ～ 2015年2月16日）	46,233,343	9,102,232
第16期 計算期間（2015年2月17日 ～ 2016年2月15日）	129,643,314	12,200,138
第17期 計算期間（2016年2月16日 ～ 2017年2月15日）	16,400,831	10,782,684
第18期 計算期間（2017年2月16日 ～ 2018年2月15日）	35,448,552	15,448,500
第19期 計算期間（2018年2月16日 ～ 2019年2月15日）	127,368,282	30,279,304
第20期 計算期間（2019年2月16日 ～ 2020年2月17日）	22,184,875	19,491,878
第21期 計算期間（2020年2月18日 ～ 2021年2月15日）	100,118,841	30,189,346
第22期 計算期間（2021年2月16日 ～ 2022年2月15日）	190,702,485	23,845,116
第23期 計算期間（2022年2月16日 ～ 2023年2月15日）	25,430,179	34,242,244
第24期 計算期間（2023年2月16日 ～ 2024年2月15日）	21,882,708	19,386,625
第25期 計算期間中（2024年2月16日 ～ 2024年8月30日）	24,796,297	5,363,493

（注）設定口数および解約口数は、全て本邦内におけるものです。

赤のライフキャンパス・ファンド（積極型）

	設定口数	解約口数
第15期 計算期間（2014年2月18日 ～ 2015年2月16日）	19,585,121	21,872,442
第16期 計算期間（2015年2月17日 ～ 2016年2月15日）	124,032,171	10,592,842
第17期 計算期間（2016年2月16日 ～ 2017年2月15日）	17,393,529	11,855,677
第18期 計算期間（2017年2月16日 ～ 2018年2月15日）	33,961,459	17,679,802
第19期 計算期間（2018年2月16日 ～ 2019年2月15日）	181,897,955	20,457,826
第20期 計算期間（2019年2月16日 ～ 2020年2月17日）	17,875,811	14,586,474
第21期 計算期間（2020年2月18日 ～ 2021年2月15日）	76,824,036	9,929,111
第22期 計算期間（2021年2月16日 ～ 2022年2月15日）	243,674,900	21,837,303
第23期 計算期間（2022年2月16日 ～ 2023年2月15日）	31,017,881	16,235,023
第24期 計算期間（2023年2月16日 ～ 2024年2月15日）	23,603,869	25,821,151
第25期 計算期間中（2024年2月16日 ～ 2024年8月30日）	29,153,014	29,612,304

（注）設定口数および解約口数は、全て本邦内におけるものです。

3【ファンドの経理状況】

- 1．当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)(以下「中間財務諸表等規則」という。)並びに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しており、金額は円単位で表示しております。
- 2．当ファンドは、第25期中間計算期間(2024年2月16日から2024年8月15日まで)の中間財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

中間財務諸表

【青のライフキャンパス・ファンド（標準型）】

（１）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第24期 (2024年2月15日現在)	第25期中間計算期間 (2024年8月15日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	68,093,814	98,198,164
親投資信託受益証券	1,820,563,608	1,832,060,173
未収利息	-	540
流動資産合計	1,888,657,422	1,930,258,877
資産合計	1,888,657,422	1,930,258,877
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	16,374,581	-
未払解約金	2	1
未払受託者報酬	783,877	850,301
未払委託者報酬	10,974,192	11,904,116
未払利息	67	-
その他未払費用	156,705	170,003
流動負債合計	28,289,424	12,924,421
負債合計	28,289,424	12,924,421
純資産の部		
元本等		
元本	1,637,458,102	1,656,020,063
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	222,909,896	261,314,393
（分配準備積立金）	225,986,024	225,255,898
元本等合計	1,860,367,998	1,917,334,456
純資産合計	1,860,367,998	1,917,334,456
負債純資産合計	1,888,657,422	1,930,258,877

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第24期中間計算期間 （自 2023年2月16日 至 2023年8月15日）	第25期中間計算期間 （自 2024年2月16日 至 2024年8月15日）
営業収益		
受取利息	296	15,516
有価証券売買等損益	146,884,742	48,496,565
営業収益合計	146,885,038	48,512,081
営業費用		
支払利息	22,159	1,745
受託者報酬	730,034	850,301
委託者報酬	10,220,399	11,904,116
その他費用	145,943	170,003
営業費用合計	11,118,535	12,926,165
営業利益	135,766,503	35,585,916
経常利益	135,766,503	35,585,916
中間純利益	135,766,503	35,585,916
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額	486,136	216,802
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	26,556,906	222,909,896
剰余金増加額又は欠損金減少額	565,700	3,763,897
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	205,904	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	359,796	3,763,897
剰余金減少額又は欠損金増加額	-	728,514
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	728,514
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	109,289,161	261,314,393

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準 及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

第24期 (2024年2月15日現在)	第25期中間計算期間 (2024年8月15日現在)
1 計算期間の末日における受益権の総数 1,637,458,102口	1 中間計算期間の末日における受益権の総数 1,656,020,063口
2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.1361円 (1万口当たり純資産額 11,361円)	2 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.1578円 (1万口当たり純資産額 11,578円)

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

	第24期 (2024年2月15日現在)	第25期中間計算期間 (2024年8月15日現在)
1 中間貸借対照表（又は貸借対照表）計上額、時価及びその差額	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2 中間貸借対照表（又は貸借対照表）の科目ごとの時価の算定方法	親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の 1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。	同左
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（その他の注記）

1 元本の移動

項 目	期 別	第24期	第25期中間計算期間
		（自 2023年2月16日 至 2024年2月15日）	（自 2024年2月16日 至 2024年8月15日）
期首元本額		1,634,962,019 円	1,637,458,102 円
期中追加設定元本額		21,882,708 円	23,909,287 円
期中一部解約元本額		19,386,625 円	5,347,326 円

2 デリバティブ取引関係

第24期（自 2023年2月16日 至 2024年2月15日）

該当事項はありません。

第25期中間計算期間（自 2024年2月16日 至 2024年8月15日）

該当事項はありません。

中間財務諸表

【赤のライフキャンパス・ファンド（積極型）】

（１）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第24期 (2024年2月15日現在)	第25期中間計算期間 (2024年8月15日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	72,235,000	100,595,391
親投資信託受益証券	2,041,588,509	2,056,445,343
未収利息	-	553
流動資産合計	2,113,823,509	2,157,041,287
資産合計	2,113,823,509	2,157,041,287
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	17,433,924	-
未払解約金	59,992	266
未払受託者報酬	865,209	961,308
未払委託者報酬	12,112,880	13,458,318
未払利息	72	-
その他未払費用	172,977	192,202
流動負債合計	30,645,054	14,612,094
負債合計	30,645,054	14,612,094
純資産の部		
元本等		
元本	1,743,392,483	1,747,228,501
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	339,785,972	395,200,692
（分配準備積立金）	410,619,969	404,913,658
元本等合計	2,083,178,455	2,142,429,193
純資産合計	2,083,178,455	2,142,429,193
負債純資産合計	2,113,823,509	2,157,041,287

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第24期中間計算期間 （自 2023年2月16日 至 2023年8月15日）	第25期中間計算期間 （自 2024年2月16日 至 2024年8月15日）
営業収益		
受取利息	319	17,549
有価証券売買等損益	198,169,655	68,856,834
営業収益合計	198,169,974	68,874,383
営業費用		
支払利息	23,933	1,826
受託者報酬	790,682	961,308
委託者報酬	11,069,486	13,458,318
その他費用	158,076	192,202
営業費用合計	12,042,177	14,613,654
営業利益	186,127,797	54,260,729
経常利益	186,127,797	54,260,729
中間純利益	186,127,797	54,260,729
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額	561,374	516,220
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	16,396,701	339,785,972
剰余金増加額又は欠損金減少額	629,603	6,462,860
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	124,360	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	505,243	6,462,860
剰余金減少額又は欠損金増加額	-	4,792,649
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	4,792,649
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	169,799,325	395,200,692

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準 及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

第24期 (2024年2月15日現在)	第25期中間計算期間 (2024年8月15日現在)
1 計算期間の末日における受益権の総数 1,743,392,483口	1 中間計算期間の末日における受益権の総数 1,747,228,501口
2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.1949円 (1万口当たり純資産額 11,949円)	2 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.2262円 (1万口当たり純資産額 12,262円)

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

	第24期 (2024年2月15日現在)	第25期中間計算期間 (2024年8月15日現在)
1 中間貸借対照表（又は貸借対照表）計上額、時価及びその差額	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2 中間貸借対照表（又は貸借対照表）の科目ごとの時価の算定方法	親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の 1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。	同左
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（その他の注記）

1 元本の移動

項 目	期 別	第24期	第25期中間計算期間
		（自 2023年2月16日 至 2024年2月15日）	（自 2024年2月16日 至 2024年8月15日）
期首元本額		1,745,609,765 円	1,743,392,483 円
期中追加設定元本額		23,603,869 円	28,384,174 円
期中一部解約元本額		25,821,151 円	24,548,156 円

2 デリバティブ取引関係

第24期（自 2023年2月16日 至 2024年2月15日）

該当事項はありません。

第25期中間計算期間（自 2024年2月16日 至 2024年8月15日）

該当事項はありません。

（参考）マザーファンドの状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

当ファンドは「国内株式マザーファンド」、「国内債券マザーファンド」、「外国株式マザーファンド」、及び「外国債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンド受益証券です。

（１）貸借対照表

国内株式マザーファンド

（単位：円）

対象年月日	（2024年2月15日現在）	（2024年8月15日現在）
科 目	金額	金額
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	98,594,555	141,100,034
株式	8,112,425,410	7,935,969,740
未収入金	169,973,435	121,722,004
未収配当金	17,664,700	14,274,300
未収利息	-	776
流動資産合計	8,398,658,100	8,213,066,854
資産合計	8,398,658,100	8,213,066,854
負債の部		
流動負債		
未払金	168,313,241	132,187,005
未払利息	98	-
流動負債合計	168,313,339	132,187,005
負債合計	168,313,339	132,187,005
純資産の部		
元本等		
元本	3,943,632,147	3,724,869,811
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（　）	4,286,712,614	4,356,010,038
元本等合計	8,230,344,761	8,080,879,849
純資産合計	8,230,344,761	8,080,879,849
負債純資産合計	8,398,658,100	8,213,066,854

国内債券マザーファンド

（単位：円）

科 目	対象年月日	（2024年2月15日現在）	（2024年8月15日現在）
		金額	金額
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		119,173,439	393,367,899
国債証券		8,215,484,480	8,223,236,960
地方債証券		292,459,000	292,135,000
特殊債券		798,908,863	571,308,141
社債券		898,434,396	1,090,715,000
未収利息		14,719,575	14,740,910
前払費用		1,011,416	1,081,872
流動資産合計		10,340,191,169	10,586,585,782
資産合計		10,340,191,169	10,586,585,782
負債の部			
流動負債			
未払利息		118	-
流動負債合計		118	-
負債合計		118	-
純資産の部			
元本等			
元本		7,549,755,086	7,797,437,520
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金（　）		2,790,435,965	2,789,148,262
元本等合計		10,340,191,051	10,586,585,782
純資産合計		10,340,191,051	10,586,585,782
負債純資産合計		10,340,191,169	10,586,585,782

外国株式マザーファンド

（単位：円）

科 目	対象年月日	（2024年2月15日現在）	（2024年8月15日現在）
		金額	金額
資産の部			
流動資産			
預金		15,246,901	27,065,945
コール・ローン		17,911,287	24,618,479
株式		4,459,979,489	4,410,871,070
投資証券		77,008,959	80,542,600
未収入金		10,918,742	7,689,785
未収配当金		3,379,219	3,154,305
未収利息		-	135
流動資産合計		4,584,444,597	4,553,942,319
資産合計		4,584,444,597	4,553,942,319
負債の部			
流動負債			
未払金		11,826,667	8,254,375
未払利息		17	-
流動負債合計		11,826,684	8,254,375
負債合計		11,826,684	8,254,375
純資産の部			
元本等			
元本		867,178,705	805,884,318
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金（　）		3,705,439,208	3,739,803,626
元本等合計		4,572,617,913	4,545,687,944
純資産合計		4,572,617,913	4,545,687,944
負債純資産合計		4,584,444,597	4,553,942,319

外国債券マザーファンド

（単位：円）

科 目	対象年月日	（2024年2月15日現在）	（2024年8月15日現在）
		金額	金額
資産の部			
流動資産			
預金		3,647,473	13
コール・ローン		7,019,803	6,985,865
国債証券		2,343,981,553	2,087,257,202
派生商品評価勘定		-	39,806
未収入金		-	16,471,086
未収利息		9,274,906	14,238,819
前払費用		13,979,542	3,983,887
流動資産合計		2,377,903,277	2,128,976,678
資産合計		2,377,903,277	2,128,976,678
負債の部			
流動負債			
未払金		-	16,921,347
未払利息		6	-
流動負債合計		6	16,921,347
負債合計		6	16,921,347
純資産の部			
元本等			
元本		699,200,504	605,083,256
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		1,678,702,767	1,506,972,075
元本等合計		2,377,903,271	2,112,055,331
純資産合計		2,377,903,271	2,112,055,331
負債純資産合計		2,377,903,277	2,128,976,678

（２）注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 運用資産の評価基準 及び評価方法	(1)株式、新株予約権証券、投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、市場価額のある有価証券についてはその最終相場（計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場又は気配相場）で評価しております。 (2)国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、原則として、市場価額のあるものについてはその終値（終値のないものについてはそれに準ずる価額）、金融商品取引所に上場されていないものについては、以下のいずれかから入手した価額で評価しております。 日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）値段 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない） 価額情報会社の提供する価額 なお、買付にかかる約定日から1年以内で償還を迎える公社債等（償還日の前年応答日が到来したものを含む。）で価格変動性が限定的であり、償却原価法による評価方法が合理的かつ受益者の利益を害しないと投資信託委託会社が判断した場合には、当該方式によって評価しております。 (3)為替予約 為替予約の評価は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物相場の仲値によって計算しております。
2 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。
3 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 国内有価証券については、原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 外国有価証券については、原則として配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を計上し、未だ確定していない場合には、入金日基準で計上しております。 (2)有価証券売買等損益、為替差損益 約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

（2024年2月15日現在）	（2024年8月15日現在）
1 計算期間の末日における受益権の総数 国内株式マザーファンド 3,943,632,147 口 国内債券マザーファンド 7,549,755,086 口 外国株式マザーファンド 867,178,705 口 外国債券マザーファンド 699,200,504 口	1 計算期間の末日における受益権の総数 国内株式マザーファンド 3,724,869,811 口 国内債券マザーファンド 7,797,437,520 口 外国株式マザーファンド 805,884,318 口 外国債券マザーファンド 605,083,256 口
2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 国内株式マザーファンド 1口当たり純資産額 2.0870円 （1万口当たり純資産額 20,870円） 国内債券マザーファンド 1口当たり純資産額 1.3696円 （1万口当たり純資産額 13,696円） 外国株式マザーファンド 1口当たり純資産額 5.2730円 （1万口当たり純資産額 52,730円） 外国債券マザーファンド 1口当たり純資産額 3.4009円 （1万口当たり純資産額 34,009円）	2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 国内株式マザーファンド 1口当たり純資産額 2.1694円 （1万口当たり純資産額 21,694円） 国内債券マザーファンド 1口当たり純資産額 1.3577円 （1万口当たり純資産額 13,577円） 外国株式マザーファンド 1口当たり純資産額 5.6406円 （1万口当たり純資産額 56,406円） 外国債券マザーファンド 1口当たり純資産額 3.4905円 （1万口当たり純資産額 34,905円）

（その他の注記）

1 元本の移動

対象年月日 項 目	（2024年2月15日現在）	（2024年8月15日現在）
国内株式マザーファンド		
期首元本額	4,711,587,190 円	3,943,632,147 円
期中追加設定元本額	217,176,583 円	46,129,422 円
期中一部解約元本額	985,131,626 円	264,891,758 円
期末元本額	3,943,632,147 円	3,724,869,811 円
元本の内訳＊		
青のライフキャンパス・ ファンド（標準型）	307,759,871 円	303,698,085 円
赤のライフキャンパス・ ファンド（積極型）	454,519,687 円	448,898,620 円
T & D 国内株式オープン S A（適格機関投資家専用）	3,181,352,589 円	2,972,273,106 円
合計	3,943,632,147 円	3,724,869,811 円
国内債券マザーファンド		
期首元本額	7,057,710,788 円	7,549,755,086 円
期中追加設定元本額	1,226,158,373 円	622,155,290 円
期中一部解約元本額	734,114,075 円	374,472,856 円
期末元本額	7,549,755,086 円	7,797,437,520 円
元本の内訳＊		
青のライフキャンパス・ ファンド（標準型）	486,702,007 円	511,620,504 円
赤のライフキャンパス・ ファンド（積極型）	321,108,392 円	338,682,603 円

T & D 国内債券オープン （非課税適格機関投資家専用）	2,433,534,092 円	2,479,696,875 円
T & D 国内債券オープン S A（適格機関投資家専用）	4,308,410,595 円	4,467,437,538 円
合計	7,549,755,086 円	7,797,437,520 円
外国株式マザーファンド		
期首元本額	1,021,916,530 円	867,178,705 円
期中追加設定元本額	119,812,058 円	30,530,702 円
期中一部解約元本額	274,549,883 円	91,825,089 円
期末元本額	867,178,705 円	805,884,318 円
元本の内訳＊		
青のライフキャンパス・ ファンド（標準型）	54,798,461 円	52,866,975 円
赤のライフキャンパス・ ファンド（積極型）	68,963,026 円	67,542,221 円
T & D 外国株式オープン S A（適格機関投資家専用）	743,417,218 円	685,475,122 円
合計	867,178,705 円	805,884,318 円
外国債券マザーファンド		
期首元本額	730,135,938 円	699,200,504 円
期中追加設定元本額	256,334,432 円	49,349,652 円
期中一部解約元本額	287,269,866 円	143,466,900 円
期末元本額	699,200,504 円	605,083,256 円
元本の内訳＊		
青のライフキャンパス・ ファンド（標準型）	65,491,313 円	51,679,969 円
赤のライフキャンパス・ ファンド（積極型）	85,146,236 円	69,272,785 円
T & D 外国債券オープン S A（適格機関投資家専用）	548,562,955 円	444,614,193 円
T & D 外国債券アクティブ オープン P F（非課税適格 機関投資家専用）	- 円	39,516,309 円
合計	699,200,504 円	605,083,256 円

＊当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

2 デリバティブ取引関係

（自 2023年2月16日 至 2024年2月15日）

該当事項はありません。

（自 2024年2月16日 至 2024年8月15日）

取引の時価等に関する事項

通貨関連

外国債券マザーファンド

（単位：円）

区 分	種 類	契 約 額 等		時 価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外 の取引	為替予約取引				
	買 建				
	USドル	7,131,412	-	7,139,982	8,570
	ユーロ	9,891,625	-	9,908,271	16,646
	売 建				
	ノルウェークローネ	16,573,585	-	16,558,995	14,590
合 計		-	-	-	39,806

（注）1 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日（以下「当該日」といいます）の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によって評価しております。

- ・ 計算期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いて評価しております。
- ・ 計算期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い日に発表されている対顧客先物相場の仲値を用いて評価しております。

2 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値により評価しております。

4【委託会社等の概況】

（１）【資本金の額】

2024年8月末日現在の資本金の額	11億円
会社が発行する株式の総数	2,294,100株
発行済株式総数	1,082,500株
過去5年間ににおける主な資本金の額の増減	該当事項はありません。

（２）【事業の内容及び営業の状況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務および第二種金融商品取引業を行っています。

委託会社の運用する証券投資信託は2024年8月末日現在、279本であり、その純資産総額の合計は1,128,636百万円です（ただし、親投資信託を除きます。）。

種類	本数	純資産総額
追加型株式投資信託	130本	589,455百万円
単位型株式投資信託	98本	377,086百万円
単位型公社債投資信託	51本	162,096百万円
合計	279本	1,128,636百万円

（３）【その他】

定款の変更等

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の特別決議が必要です。

訴訟事件その他の重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

5【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。
2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第44期事業年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

（１）【貸借対照表】

		前事業年度 （2023年3月31日現在）		当事業年度 （2024年3月31日現在）	
区分	注記 番号	内訳 （千円）	金額 （千円）	内訳 （千円）	金額 （千円）
（資産の部）					
流動資産					
１．現金・預金			5,087,551		5,243,788
２．前払費用			75,321		84,385
３．未収入金			76,043		11
４．未収委託者報酬			691,691		786,210
５．未収運用受託報酬			354,878		372,799
６．その他			24,468		28,389
流動資産計			6,309,954		6,515,585
固定資産					
１．有形固定資産			65,997		80,377
（１）建物	1	61,571		58,177	
（２）器具備品	1	4,335		22,132	
（３）その他	1	89		67	
２．無形固定資産			66,210		59,615
（１）電話加入権		2,862		2,862	
（２）ソフトウェア		59,829		51,914	
（３）ソフトウェア仮勘定		3,518		4,837	
３．投資その他の資産			471,050		377,814
（１）投資有価証券		161,600		73,082	
（２）長期差入保証金		90,675		94,383	
（３）繰延税金資産		205,341		201,452	
（４）長期前払費用		13,432		8,896	
固定資産計			603,258		517,807
資産合計			6,913,213		7,033,392

		前事業年度 (2023年 3 月31日現在)		当事業年度 (2024年 3 月31日現在)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
(負債の部)					
流動負債					
1 . 預り金			526		8,230
2 . 未払金			271,941		313,073
(1) 未払収益分配金		2,477		2,477	
(2) 未払償還金		2		2	
(3) 未払手数料		219,122		253,964	
(4) その他未払金		50,339		56,629	
3 . 未払費用			399,233		383,553
4 . 未払法人税等			10,104		37,418
5 . 未払消費税等			34,659		47,112
6 . 賞与引当金			198,672		217,291
7 . 役員賞与引当金			6,500		9,000
流動負債計			921,637		1,015,679
固定負債					
1 . 退職給付引当金			459,728		458,579
2 . 役員退職慰労引当金			23,380		9,625
固定負債計			483,109		468,204
負債合計			1,404,746		1,483,883
(純資産の部)					
株主資本					
1 . 資本金			1,100,000		1,100,000
2 . 資本剰余金			277,667		277,667
(1) 資本準備金		277,667		277,667	
3 . 利益剰余金			4,128,773		4,160,606
(1) 利益準備金		175,000		175,000	
(2) その他利益剰余金					
別途積立金		3,137,790		3,137,790	
繰越利益剰余金		815,983		847,816	
株主資本計			5,506,441		5,538,274
評価・換算差額等					
1 . その他有価証券評価 差額金			2,025		11,234
評価・換算差額等計			2,025		11,234
純資産合計			5,508,466		5,549,509
負債・純資産合計			6,913,213		7,033,392

（２）【損益計算書】

		前事業年度 (自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日)		当事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
営業収益					
１．委託者報酬			3,589,974		3,815,873
２．運用受託報酬			1,352,459		1,371,210
３．投資助言報酬			10,000		10,000
４．その他営業収益			26,574		30,018
営業収益計			4,979,008		5,227,102
営業費用					
１．支払手数料			1,214,944		1,314,653
２．広告宣伝費			380		449
３．調査費			1,531,036		1,462,653
（１）調査費		81,751		78,433	
（２）委託調査費		1,022,173		938,128	
（３）情報機器関連費		426,284		445,204	
（４）図書費		827		887	
４．委託計算費			194,939		202,225
５．営業雑経費			94,488		87,513
（１）通信費		8,024		8,752	
（２）印刷費		76,071		68,725	
（３）協会費		5,634		5,403	
（４）諸会費		4,758		4,632	
営業費用計			3,035,789		3,067,495
一般管理費					
１．給料			1,187,234		1,182,195
（１）役員報酬		49,917		49,713	
（２）給料・手当		1,067,224		1,064,091	
（３）賞与		70,092		68,391	
２．法定福利費			194,915		202,434
３．退職金			3,999		3,089
４．福利厚生費			4,828		3,982
５．交際費			529		671
６．寄付金			79		21
７．旅費交通費			4,732		4,865
８．事務委託費			110,489		108,634
９．租税公課			78,199		75,603
１０．不動産賃借料			156,478		156,478
１１．退職給付費用			54,858		55,316
１２．役員退職慰労引当金繰入			3,282		2,800
１３．賞与引当金繰入			198,672		217,291
１４．役員賞与引当金繰入			6,500		9,000
１５．固定資産減価償却費			29,715		34,022
１６．諸経費			47,236		48,013
一般管理費計			2,081,750		2,104,422
営業利益又は営業損失()			138,531		55,185

		前事業年度 (自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日)		当事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
営業外収益					
1 . 受取配当金			953		952
2 . 受取利息			34		31
3 . 為替差益			3,804		-
4 . 助成金収入			500		500
5 . 受取補償金			12,514		-
6 . 雑収入			2,537		590
営業外収益計			20,343		2,074
営業外費用					
1 . 為替差損			-		9,366
2 . 支払補償金			12,514		-
3 . 損失補填金			1,870		-
4 . 雑損失			676		171
営業外費用計			15,061		9,537
経常利益又は経常損失()			133,248		47,722
特別利益					
1 . 投資有価証券売却益			337		12,192
特別利益計			337		12,192
特別損失					
1 . 固定資産除却損	1		50		251
2 . 投資有価証券評価損			15,870		-
3 . 投資有価証券売却損			184,477		2,551
特別損失計			200,397		2,802
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失()			333,309		57,112
法人税、住民税及び事業税			73,742		25,455
法人税等調整額			8,130		175
当期純利益又は 当期純損失()			251,436		31,832

（３）【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株 主 資 本							
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金				株主資本 合計
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金		利益 剰余金 合計	
					別途 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	3,067,880	6,380,670	7,758,338
当期変動額								
剰余金の配当						2,000,460	2,000,460	2,000,460
当期純利益又は 当期純損失()						251,436	251,436	251,436
株主資本 以外の項目の 当期変動額 (純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	2,251,896	2,251,896	2,251,896
当期末残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	815,983	4,128,773	5,506,441

	評価・換算差額等		純資産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	45,578	45,578	7,712,759
当期変動額			
剰余金の配当			2,000,460
当期純利益又は当期純損失 （ ）			251,436
株主資本 以外の項目の 当期変動額 （純額）	47,604	47,604	47,604
当期変動額合計	47,604	47,604	2,204,292
当期末残高	2,025	2,025	5,508,466

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

	株 主 資 本							
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金				株主資本 合計
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金		利益 剰余金 合計	
					別途 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	815,983	4,128,773	5,506,441
当期変動額								
当期純利益又は 当期純損失（ ）						31,832	31,832	31,832
株主資本 以外の項目の 当期変動額 （純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	31,832	31,832	31,832
当期末残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	847,816	4,160,606	5,538,274

	評価・換算差額等		純資産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	2,025	2,025	5,508,466
当期変動額			
当期純利益又は当期純損失 （ ）			31,832
株主資本 以外の項目の 当期変動額 （純額）	9,209	9,209	9,209
当期変動額合計	9,209	9,209	41,042
当期末残高	11,234	11,234	5,549,509

重要な会計方針

1．有価証券の評価基準及び評価方法

（１）その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法を採用しております。（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

市場価格のない株式等

移動平均法に基づく原価法を採用しております。

2．固定資産の減価償却の方法

（１）有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、1998年４月１日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年４月１日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	3～50年
器具備品	2～15年
その他	8年

（２）無形固定資産

定額法を採用しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（５年）に基づく定額法を採用しております。

3．引当金の計上基準

（１）賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

（２）役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

（３）退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、簡便法（期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により、期末要支給額を計上しております。

（４）役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4．収益及び費用の計上基準

（１）委託者報酬

委託者報酬は、投資信託約款に基づき、一定の期間にわたる運用により履行義務が充足されると判断しているため、投資信託の日々の純資産総額に信託報酬率を乗じた金額で収益を認識しております。

委託者報酬に含まれる成功報酬については、投資信託約款に基づき対象となる投資信託の特定のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。

（２）運用受託報酬

運用受託報酬は、投資一任契約に基づき、契約期間にわたる運用により履行義務が充足されると判断しているため、投資一任契約に基づき算出された計算基礎残高に投資顧問料率を乗じた金額で収益を認識しております。

運用受託報酬に含まれる成功報酬については、投資一任契約に基づき対象となる運用資産の特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。

（３）投資助言報酬

投資助言報酬は、投資顧問契約に基づき、契約期間にわたり均一の助言サービスを提供するものであるため、期間の経過に応じて履行義務が充足されると判断しており、役務を提供する期間にわたり収益を認識しております。

注記事項

（貸借対照表関係）

前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
1 有形固定資産の減価償却累計額 建物 77,010千円 器具備品 175,839千円 その他 807千円	1 有形固定資産の減価償却累計額 建物 82,734千円 器具備品 130,925千円 その他 829千円

（損益計算書関係）

前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1 固定資産除却損の内訳は次のとおりです。 器具備品 0千円 ソフトウェア 50千円	1 固定資産除却損の内訳は次のとおりです。 器具備品 9千円 ソフトウェア 241千円

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	1,082	-	-	1,082

2．配当に関する事項

（1）配当金支払額

2022年6月10日開催の第42期定時株主総会において、次のとおり決議しました。

- 1) 配当金の総額 2,000,460千円
- 2) 配当の原資 利益剰余金
- 3) 1株当たり配当額 1,848.00円
- 4) 基準日 2022年3月31日
- 5) 効力発生日 2022年6月13日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	1,082	-	-	1,082

2．配当に関する事項

（１）配当金支払額

該当事項はありません。

（２）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

（金融商品関係）

1．金融商品の状況に関する事項

（１）金融商品に対する取組方針

当社では、資金運用については原則として預金等の資産を中心に投資する方針であり、有価証券の取得を行う場合には、投機的な取引は行いません。

また、資金調達については、主に金融機関からの借入による方針です。

（２）金融商品の内容及びそのリスク

未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は顧客の信用リスクに晒されておりますが、主に信託銀行により分別管理が行われている信託財産から支弁されており、当該リスクの影響は軽微です。

投資有価証券は、主に非上場株式及び投資信託です。非上場株式は業務上の関係維持を目的として保有しており、定期的に発行体の財務状況等の把握を行っております。投資信託は当社が設定する投資信託を商品性の維持等を目的に取得しているものであり、市場価格等の変動リスクに晒されております。

未払金、未払費用は、ほとんどが１年以内の支払期日です。

（３）金融商品に係るリスク管理体制

当社は、「リスク管理基本方針」にて各種リスクの基本的考え方を定めており、「財務リスク管理規程」によって、財務リスク（資金繰りリスク、信用リスク、価格変動リスク）の管理方法を定めています。財務リスクの状況は、月次で開催されるリスク管理委員会にてモニタリングが行われます。

２．金融商品の時価等に関する事項

前事業年度（2023年3月31日）

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。市場価格のない株式等は、次表に含めておりません（（注１）参照）。また、現金については現金であること、並びに預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未払金及び未払費用は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しております。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券 其他有価証券	131,400	131,400	-
資産計	131,400	131,400	-

（注１）市場価格のない株式等の貸借対照表計上額は次のとおりであり、上表の「其他有価証券」には含めておりません。

これらについては、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）

第５項に従い、３．金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項で開示している表中には含めておりません。

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	30,200
合計	30,200

（注２）金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	１年以内	１年超 ５年以内	５年超
現金・預金	5,087,551	-	-
未収委託者報酬	691,691	-	-
未収運用受託報酬	354,878	-	-
投資有価証券 其他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	10,869	16,380	104,150
合計	6,144,992	16,380	104,150

当事業年度（2024年3月31日）

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。市場価格のない株式等は、次表に含めておりません（（注1）参照）。また、現金については現金であること、並びに預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未払金及び未払費用は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しております。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券 其他有価証券	42,882	42,882	-
資産計	42,882	42,882	-

（注1）市場価格のない株式等の貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「其他有価証券」には含めておりません。これらについては、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に従い、（3）金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項で開示している表中には含めておりません。

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	30,200
合計	30,200

（注2）金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
現金・預金	5,243,788	-	-
未収委託者報酬	786,210	-	-
未収運用受託報酬	372,799	-	-
投資有価証券 其他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	30,063	12,819	-
合計	6,432,861	12,819	-

３．金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて以下の３つのレベルに分類しております。

レベル１の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル２の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル１のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル３の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

前事業年度（2023年３月31日）

（１）時価で貸借対照表に計上している金融商品

（単位：千円）

	時価			
	レベル１	レベル２	レベル３	合計
投資有価証券				
その他有価証券	-	131,400	-	131,400
資産計	-	131,400	-	131,400

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

市場における取引価格が存在しない投資信託については基準価額を時価とし、レベル２の時価に分類しております。

（２）時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

該当事項はありません。

当事業年度（2024年3月31日）

（１）時価で貸借対照表に計上している金融商品

（単位：千円）

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券	-	42,882	-	42,882
資産計	-	42,882	-	42,882

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

市場における取引価格が存在しない投資信託については基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類しております。

（２）時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

該当事項はありません。

（有価証券関係）

前事業年度（2023年3月31日）

１．その他有価証券

その他有価証券の当事業年度の売却額は318,858千円であり、売却益の合計額は337千円、売却損の合計額は184,477千円です。また、その他有価証券において、種類ごとの貸借対照表計上額、取得原価及びこれらの差額については、次のとおりです。

（単位：千円）

	種類（＊）	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	（１）その他	107,336	102,994	4,342
	小計	107,336	102,994	4,342
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	（１）その他	24,063	25,487	1,423
	小計	24,063	25,487	1,423
合計		131,400	128,481	2,919

（＊）当事業年度において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

２．減損処理を行った有価証券

当事業年度において、投資有価証券について15,870千円（その他有価証券15,870千円）減損処理を行っております。

当事業年度（2024年3月31日）

1. その他有価証券

その他有価証券の当事業年度の売却額は130,345千円であり、売却益の合計額は12,192千円、売却損の合計額は2,551千円です。また、その他有価証券において、種類ごとの貸借対照表計上額、取得原価及びこれらの差額については、次のとおりです。

（単位：千円）

	種類（*）	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	（１）その他	37,430	20,089	17,340
	小計	37,430	20,089	17,340
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	（１）その他	5,451	6,599	1,147
	小計	5,451	6,599	1,147
合計		42,882	26,689	16,193

（*）当事業年度において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

2. 減損処理を行った有価証券

該当事項はありません。

（収益認識関係）

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

（単位：千円）

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1. 委託者報酬	3,589,974	3,815,873
2. 運用受託報酬	1,352,459	1,371,210
3. 投資助言報酬	10,000	10,000
4. その他営業収益	26,574	30,018
合計	4,979,008	5,227,102

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「重要な会計方針 4. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

（退職給付関係）

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1．採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2．確定給付制度

（1）簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	467,064千円
退職給付費用	40,539千円
退職給付の支払額	47,875千円
退職給付引当金の期末残高	459,728千円

（2）退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

退職一時金制度の退職給付債務	459,728千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	459,728千円

退職給付引当金	459,728千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	459,728千円

（3）退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	45,387千円
----------------	----------

（注）退職給付費用には株式会社T & Dホールディングスからの出向者に対する当社負担分を含めております。

3．確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額	9,470千円
--------------	---------

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

（1）簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	459,728千円
退職給付費用	42,636千円
退職給付の支払額	43,785千円
退職給付引当金の期末残高	458,579千円

（2）退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

退職一時金制度の退職給付債務	458,579千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	458,579千円

退職給付引当金	458,579千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	458,579千円

（3）退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	46,017千円
----------------	----------

（注）退職給付費用には株式会社T & Dホールディングスからの出向者に対する当社負担分を含めております。

3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額	9,299千円
--------------	---------

（税効果会計関係）

1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
	(単位：千円)	(単位：千円)
（繰延税金資産）		
税務上の繰越欠損金（注1）	17,751	14,253
賞与引当金	60,833	66,534
未払社会保険料	9,919	11,064
未払事業税	2,392	4,994
退職給付引当金	147,927	143,364
連結納税加入に伴う有価証券時価評価益	15,061	15,061
その他	23,270	24,800
小計	277,157	280,072
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	12,451	14,201
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	58,469	59,459
評価性引当額小計	70,921	73,661
繰延税金資産計	206,235	206,411
（繰延税金負債）		
その他有価証券評価差額金	893	4,958
繰延税金負債計	893	4,958
繰延税金資産の純額	205,341	201,452

（注1）税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前事業年度（2023年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金（*）	-	-	17,751	17,751
評価性引当額	-	-	12,451	12,451
繰延税金資産	-	-	5,300	5,300

（*）税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額です。

（*）税務上の繰越欠損金17,751千円（法定実効税率を乗じた額）の一部について、繰延税金資産5,300千円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込等により回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

当事業年度（2024年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金（*）	-	-	14,253	14,253
評価性引当額	-	-	14,201	14,201
繰延税金資産	-	-	52	52

（*）税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額です。

（*）税務上の繰越欠損金14,254千円（法定実効税率を乗じた額）の一部について、繰延税金資産52千円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込等により回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度（2023年3月31日）

当事業年度（2024年3月31日）

税引前当期純損失を計上しているため注記を省略しております。

法定実効税率	30.6 %
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.8 %
住民税均等割	4.0 %
評価性引当額の増減	4.7 %
所得税額控除	1.4 %
その他	0.7 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.2 %

3. グループ通算制度の適用

当社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

（セグメント情報等）

1．セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2．関連情報

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（１）製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

（２）地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

（３）主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先は次のとおりです。

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	営業収益
大同生命保険株式会社	588,525

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（１）製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

（２）地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

（３）主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先は次のとおりです。

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	営業収益
大同生命保険株式会社	630,330

（関連当事者との取引）

１．関連当事者との取引

（１）財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	(株)T&Dホールディングス	東京都中央区	207,111	持株会社	(被所有) 直接 100	経営管理	グループ通算制度に伴う受領予定額(*)	76,032	未収入金	76,032

（注）取引条件及び取引条件の決定方針等

（*）グループ通算制度に係る、親会社から授受する通算税効果額です。

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	(株)T&Dホールディングス	東京都中央区	207,111	持株会社	(被所有) 直接 100	経営管理	グループ通算制度に伴う支払予定額(*)	124	未払金	124

（注）取引条件及び取引条件の決定方針等

（*）グループ通算制度による法人税額のうち当社の通算税効果額であり、親会社への支払予定額であります。

（２）財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社の子会社	大同生命保険(株)	大阪市西区	110,000	生命保険業	-	投資一任契約の締結	投資一任契約(*)	556,407	未収運用受託報酬	146,724

（注）取引条件及び取引条件の決定方針等

（*）投資一任契約にかかる報酬については、運用の種類・受託資産の規模等を勘案し総合的に決定しております。

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又は 職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
親会社の子会社	大同生命 保険(株)	大阪市 西区	110,000	生命 保険業	-	投資一任 契約の 締結	投資一任 契約（*）	589,853	未収 運用受 託報酬	161,495

（注）取引条件及び取引条件の決定方針等

（*）投資一任契約にかかる報酬については、運用の種類・受託資産の規模等を勘案し総合的に決定しております。

２．親会社又は重要な関連会社に関する注記

（１）親会社情報

株式会社 T & D ホールディングス（東京証券取引所に上場）

（１株当たり情報）

前事業年度 (自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日)		当事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	
1株当たり純資産額	5,088.65円	1株当たり純資産額	5,126.56円
1株当たり当期純損失（ ）	232.27円	1株当たり当期純利益	29.40円
なお、潜在株式調整後 1株当たり当期純利益については、潜在株式調整後 1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後 1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
1株当たり当期純損失の算定上の基礎		1株当たり当期純利益の算定上の基礎	
当期純損失（ ）（千円）	251,436	当期純利益（千円）	31,832
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	普通株主に帰属しない金額（千円）	-
普通株式に係る 当期純損失（ ）（千円）	251,436	普通株式に係る当期純利益（千円）	31,832
普通株主の期中平均株式数（千株）	1,082	普通株主の期中平均株式数（千株）	1,082

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2024年6月4日

T & D アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 羽柴 則央
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 福村 寛
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているT & D アセットマネジメント株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第44期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & D アセットマネジメント株式会社の2024年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2024年10月18日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	羽柴 則央
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	福村 寛

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている青のライフキャンパス・ファンド（標準型）の2024年2月16日から2024年8月15日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、青のライフキャンパス・ファンド（標準型）の2024年8月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2024年2月16日から2024年8月15日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
 - ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
 - ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。
- 監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

T & D アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2024年10月18日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員

業務執行社員

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士

羽柴 則央

公認会計士

福村 寛

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている赤のライフキャンパス・ファンド（積極型）の2024年2月16日から2024年8月15日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、赤のライフキャンパス・ファンド（積極型）の2024年8月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2024年2月16日から2024年8月15日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
 - ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
 - ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。
- 監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

T & D アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。